

# 森岡地区拠点施設基本構想・基本計画(案)【概要版】

## 背景・目的等

### 1. 背景・目的

公共施設は今後一斉に更新時期を迎える一方、人口減少や少子高齢化などによる財源の減少により、今ある施設を今の姿のまま維持・更新し続けることは、非常に困難な状況にある。  
 →将来にわたって持続可能な公共施設のあり方を目指し、2016年3月に「東浦町公共施設等総合管理計画」を、2024年3月に「東浦町公共施設再配置計画」を策定  
 →森岡地区を地区拠点形成のモデル事業として位置付け、小学校を核とし地区施設の複合化・集約化を図る。  
 →多世代交流や多機能化による利便性向上や合理性・効率性の最大化、コスト縮減等を図る方向性を踏まえ、森岡地区拠点施設基本構想・基本計画を策定する。

### 2. モデル事業としての役割

森岡地区の複合拠点はモデル事業として以下の役割を担うことが求められている。

- ①再配置計画に基づく地区拠点形成の先導的モデル
- ②複合化による地域の核となるまちづくり拠点形成モデル
- ③公共施設ファシリティマネジメントの観点での適正規模設定・財政負担縮減モデル
- ④土地区画整理事業等の市街地整備の促進による居住誘導施策の推進モデル

### 3. 森岡地区拠点施設(モデル事業)概要

森岡地区の複合拠点施設に係る対象施設及び対象敷地の概要は以下のとおりである。

#### 【複合対象施設概要】

施設名	建築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	駐車場台数		所管課	施設類型
				現状 (台)	必要 (台)		
森岡分団詰所	1981	189.87	99.94	6	14	防災危機管理課	行政施設
森岡保育園	1971	4,683.07	617.49	22	32	児童課	子育て支援施設
森岡西保育園	1975	3,444.57	1,337.30	24	38	児童課	子育て支援施設
森岡児童館	1997	1,359.00	329.02	15	22	児童課	子育て支援施設
森岡コミュニティセンター	1980	3,449.00	788.07	38	60	生涯学習課	社会教育・コミュニティ施設
森岡老人憩の家	1987	451.88	171.69	不明	不明	ふくし課	保健・福祉施設
北部ふれあいセンター	1994	1,456.00	721.38	16	16	スポーツ課	体育施設
森岡小学校	1963	20,489.00	6,837.50	40	40	学校教育課	学校教育施設

#### 【敷地概要】



※実際の建物配置については、基本計画、設計時に検討の上、判断します。

敷地面積(建物配置可能面積)	21,848㎡(20,000㎡)+約10,000㎡※	
借地	無し	
用途地域	市街化区域(第一種中高層住居専用地域)※	
指定建蔽率/指定容積率	60%/200%	
災害ハザード	—	
立地適正化計画	居住誘導区域	○
	都市機能誘導区域	—
備考	※(仮称)東浦森岡南部土地区画整理事業(予定)用地	

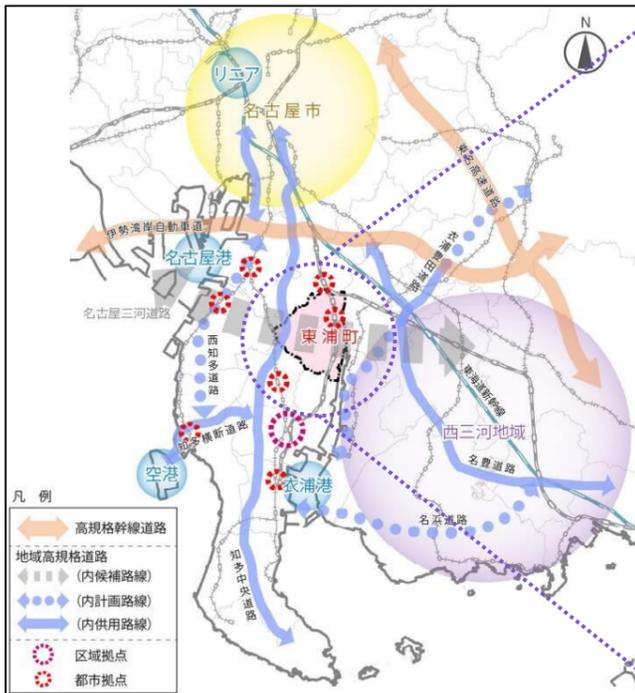
## 東浦町及び森岡地区の特性と複合拠点の位置づけ

### 1. 東浦町の特性及び森岡地区の特性

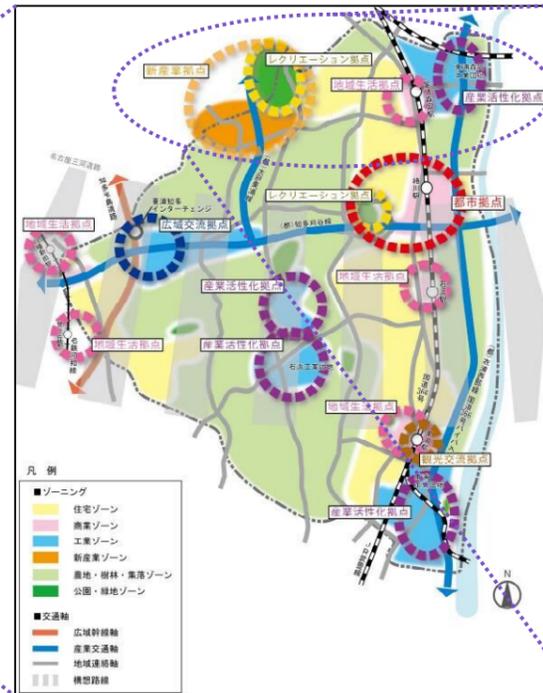
- 【広域から見た東浦町の位置づけ】  
 ・名古屋中心部へ30分圏内、知多半島の入り口、名古屋港臨海部工業地帯・衣浦港臨海部・西三河地域との間に位置  
 ・新たな動線である名古屋三河道路の計画  
 →広域的な交通ポテンシャルを活用できる
- 【東浦町の特性】  
 ・総合計画:「**ちようどいい**」があるまち  
 ①丘陵の緑、水辺にも恵まれたまち  
 ②交通アクセスのよいまち(JR、名鉄、インターチェンジ+名古屋方面、三河方面、中部国際空港へのアクセス)  
 ③近くに病院のあるまち(総合病院、医療研究機関の集積)  
 ④働く場のあるまち(製造業を中心とした企業の本社・工場)  
 ⑤買い物が便利なまち(JR緒川駅前大型ショッピングモール)  
 ⑥特産品のあるまち(稲作、ブドウ、イチゴ、洋ランなど)

- 【東浦町の将来都市像】  
**「住みたい 住み続けたい 集い 憩い 想う まち ひがしうら」**  
 【森岡地区に係る将来都市構造の拠点の考え方】  
 ①地域生活拠点: JR尾張森岡駅  
 生活機能が集積した利便性の高い生活環境の形成  
 ②産業活性化拠点: 森岡地域の工業地  
 既存産業の操業環境の向上・維持や新規企業の積極的な誘致  
 ③レクリエーション拠点: あいち健康の森公園  
 周辺施設との連携、公園の回遊性  
 ④新産業拠点: あいち健康の森周辺  
 ウェルネスバレー構想の実現(健康・医療・福祉・介護関連の企業誘致促進)

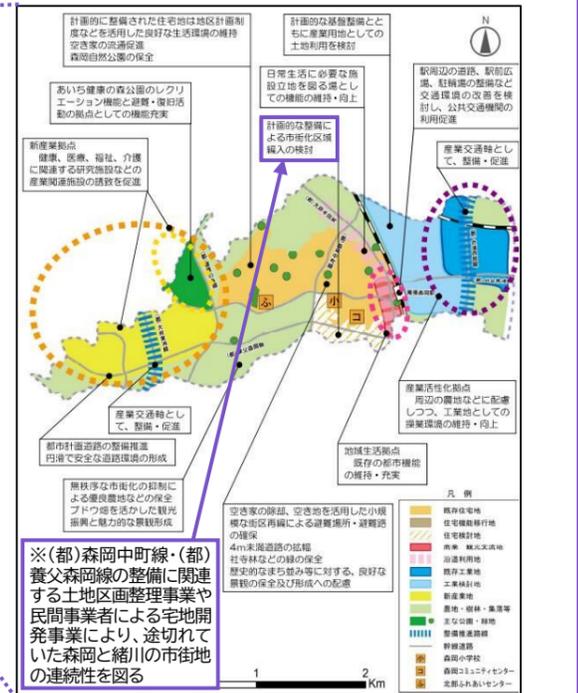
- 【地域のまちづくりの目標(森岡地域)】  
 ①新産業拠点や産業活性化拠点を活用したまちづくり  
 ②地域商業拠点(JR尾張森岡駅)を中心とした快適で利便性の高いまちづくり  
 ③市街地と緑との共存による良好なまちづくり
- 【主な方針】  
 ・駅周辺は周辺地域住民のための商業・医療・福祉等の都市機能が集積した地域生活拠点の形成  
 ・新産業拠点はウェルネスバレー構想実現のため、健康・医療・福祉・介護に関する産業関連施設の誘致  
 ・ブドウ畑を活かした地域交流人口増加による賑わいづくり、観光振興と魅力的な景観形成  
 ・極楽寺などの史跡や文化財を地域の貴重な資源としてまちづくりに活用、将来へ継承



広域から見た東浦町の位置づけ(概念図)



将来都市構造図



まちづくり方針図(森岡地域)

## 2. 森岡地区の目指す姿と森岡地区における拠点施設の位置づけ



森岡地区の公共施設配置図

### 【森岡地区の目指す姿(キーワード)】

**定住人口・地域交流人口確保**  
 森岡と緒川をつなぐ土地区画整理事業(住宅の受皿) | 交通アクセス(名古屋・三河方面)のよさ

**森岡の魅力(住民意見)**  
 ブドウ畑(特産品・景観資源)の活用 | あいち健康の森との連携 | ウェルネスバレー構想(健康・医療・福祉・介護)

**地域資源活用**  
 市街地と緑との共存

### 【森岡地区拠点施設の位置づけ】

まちづくりの観点で俯瞰的に森岡地区の目指す姿を見据えつつ、森岡地区の中心部に位置する森岡小学校を核とし、地区施設の複合化による拠点を形成する。  
 立地の良さに加え、地域資源を活かし、学びだけでなく、ブドウや健康・福祉の視点も含めた魅力的な拠点形成が必要  
 →まちの付加価値を高める拠点を形成することで、森岡地区への「住みたい、住み続けたい、学びたい、働きたい」に貢献し、まちの魅力向上、愛着醸成に繋がる。

複合拠点整備に係る現状把握及び課題・必要性の整理

1. 現状把握

**① 学び**

- 国より「School for the Future」(未来志向の視点)として、柔軟で創造的な学習空間を実現、地域の実情等に応じて学校施設を核として複合化・共用化等を図り、多様な「知」が集積し新しい価値を生み出す施設の整備推進が求められている一方、対応はできていない
- 森岡小学校は標準設計の学校であるが、町として、**オープンスクール**やユネスコスクール、アフタースクール、小学校水泳授業の民間委託など、特徴ある教育環境が構築されている
- 教育大綱にて、学校、家庭、地域が連携し、地域ぐるみで児童生徒を守り育てる環境づくりを推進し、コミュニティ・スクールの取り組みを深めるなど、魅力ある教育環境が求められている
- 児童だけでなく、**地域住民の学び(生涯学習)の拠点形成**も期待されている

主な住民意見

**② 交流**

- 村木砦等の歴史資源**やぶどう畑等の特産・景観、自然資源といった地区特性が見られる
- 森岡地区コミュニティ推進協議会が発足しており、**地区の活動が盛ん**である一方で、**コミュニティの問題(新しい住民の参加、地域活動への住民の興味・意義)**も挙げられている
- 複合拠点整備に向けて、町民意見等でも**多世代交流**や地域住民**皆の居場所**が求められており、**シビックプライドの醸成**が期待されている
- 森岡地区の南部で土地区画整理事業が進行しており、今後、事業に伴う市街化、宅地開発にて住民の増加が想定される
- 森岡小学校では**学校開放**や**地域と学校が連携した取り組み**がなされている

**③ 安全・安心**

- 森岡の地区施設の老朽化が全体的に進行しており、**利用者の安全性が懸念**される
- 近年、災害の激甚化が進行しており、防災機能・避難所機能の重要度が高まっているなか、森岡小学校(指定避難所及び指定緊急避難場所)は災害ハザードのない高所に位置し、避難の観点から良好な立地に位置している
- 防犯上、セキュリティの観点から児童や園児の安全性の確保が求められている
- 住民意向調査にて、森岡地区の今後のまちづくりとして**「防犯対策」「防災などの安全なまちづくり」**が求められている

**④ 持続可能**

- 東浦町再配置計画にて、持続可能な拠点整備に向けた面積目標として、「既存施設の総延床面積よりも『30%以上』の面積削減を図る。」を掲げている
- 森岡地区の人口について、土地区画整理事業にて一時的に増加するものの、将来的には減少が見込まれるため、中長期的な視点が求められている
- 近年求められるニーズへの非対応等の状況等や使い方が変わっている施設も見られる
- 公共施設を取り巻く社会情勢として、SDGsやアフターコロナ、Society5.0、カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素化等を踏まえた拠点整備が求められている
- 森岡地区の複合拠点整備が**他地区・全国の先進的モデルとなること**が期待されている

**⑤ 運営体制**

- 複合による管理運営区分の体制構築が懸念されているが、国より教育環境の向上と同時にトータルコストの最適化を図るため、部局を超えた横断的な検討体制の構築が求められており、東浦町再配置計画にて、組織改編により新拠点所管組織を設立し、利用者の利便性向上や事業連携による魅力向上、管理運営の効率化等を図ることが期待されている
- 多様な主体の理解と協力が不可欠であるため、**実際の利用者となる町民(特に子ども)の意見を積極的に取り入れる機会を設け、協働して施設整備を進めること**が求められている
- 総合計画においても「つくる つながる ささえあう～幸せと絆を実感できるまち 東浦～」が将来像として示されており、住民が満足できる柔軟な行政運営を目指すとしている

2. 課題・必要性

**新しい時代の学びに向けた拠点形成・地域住民の学びの場**

- 既存機能を単に踏襲するのではなく、森岡地区の地域の実情を踏まえつつ、複合化を活かした**新しい学びにふさわしい教育環境**の整備、**多様な教育への対応**が必要
- オープンスクール等の特色ある教育環境を活かしつつ、地域と学校が一体となった**森岡らしい魅力のある学びの拠点**整備が必要
- 地域住民の生涯学習**としての学びの場でもある必要

**コミュニティ形成拠点・地域住民の居場所づくり**

- 多様な世代、居住歴である**地域住民みんなが交流**でき、既存のコミュニティ活動の活性化、コミュニティ形成に寄与する**拠点**が必要
- まちづくり拠点として、森岡地区を取り巻く**歴史や自然等の様々な資源を生かした特色ある拠点**整備が必要
- 地域住民**みんなが気軽に訪れ、居場所となりうる拠点**形成、地域住民の**シビックプライドの醸成**に寄与する**拠点**整備が期待

**利用者の安全確保・防災拠点としての施設整備**

- 多様な利用者が想定されるため、特に**児童や園児をはじめとした利用者が安全・安心**に過ごせる**拠点**形成が必要
- 平常時だけでなく、緊急時にも活用でき、近年の激甚災害にも耐えうる**防災拠点**としての整備が必要
- 老朽化や陳腐化等の解消、防犯性・防災性を確保することで、森岡地区の安全なまちづくりに寄与する**拠点**形成が必要

**将来を見据えた持続可能な適正規模の施設整備**

- 将来世代へ負担を残さないため、中長期を見据え必要なサービスは確保しながらも身の丈に合った**適正規模の施設**整備が必要
- 柔軟性や可変性のある拠点**整備が必要
- SDGsや脱炭素化等を踏まえた**拠点**整備が必要
- 複合化による魅力的な**拠点**創出だけでなく、ファシリティマネジメントの観点から踏まえて**持続可能な拠点**創出の両面での施設整備が必要

**新拠点所管組織の設立、関係主体の意見反映の場**

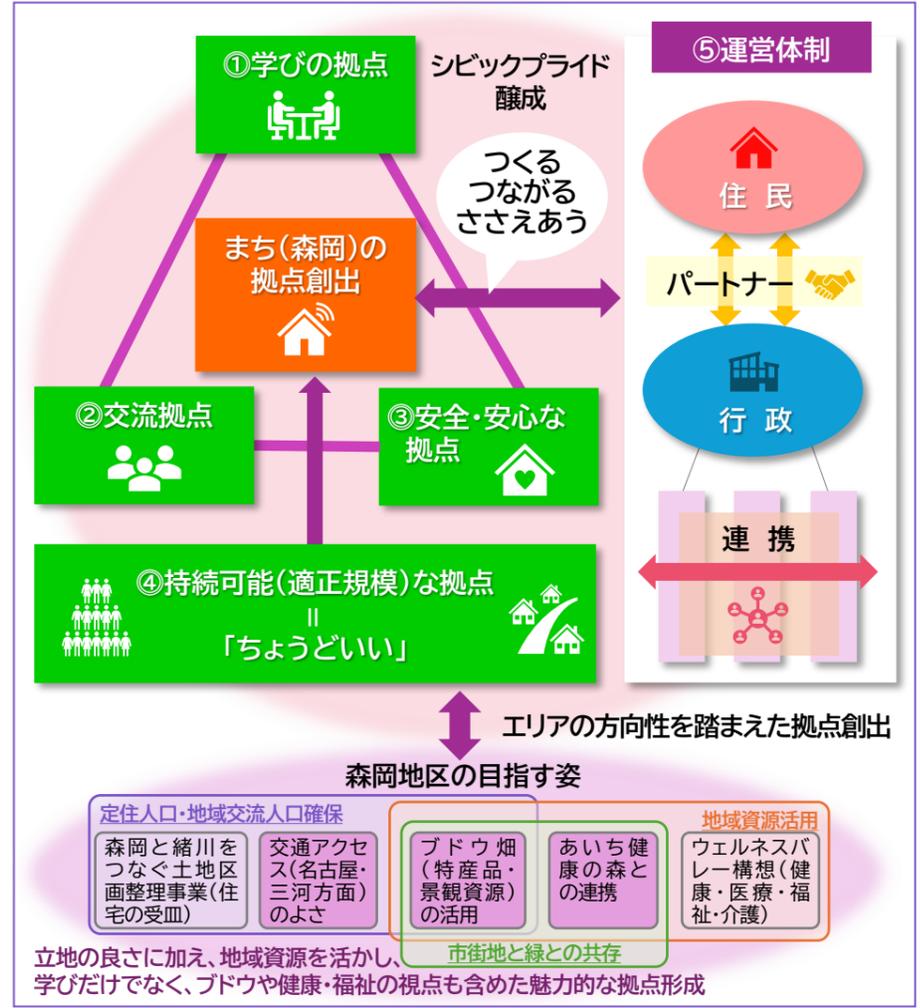
- 早期に新拠点所管組織を設立し、計画段階から関与するとともに、複合拠点のワンストップ窓口となることで、利用者の利便性向上や事業連携による魅力向上等に繋げるといった柔軟な行政運営を行う必要
- 子どもをコアとした町民や様々な関係主体の意見を積極的に取り入れること**で、地域ぐるみで皆が**自分事、みんな事として協働運営**する環境の土台を形成し、「つくる つながる ささえあう」を実現する必要

複合拠点施設の目指す姿

1. 基本理念(仮)

「つくる・つながる・ささえあう」を実現する 森岡らしい「ちょうどいい」まちの拠点創出

2. コンセプト(仮)



3. 基本方針(仮)

- ① 学びの拠点**  
児童・園児の学びをはじめ、地域住民の「学びの拠点」を形成する。  
● 森岡らしい地域資源を活かした新しい時代の学びの拠点  
● 個別化教育の推進など、多様な教育への柔軟な対応が可能な拠点  
● 多様な機能、複合化、地域・多世代交流を活かした魅力ある教育環境の形成  
● 児童・園児だけでなく地域住民みんなの学び(生涯学習)の拠点
- ② 交流(コミュニティ)拠点**  
多様な世代の方が居場所として利用でき、繋がることのできる「交流の拠点」を形成する。  
● 多世代が「つながる」ことができ、地域住民が愛着・誇りを持てる拠点  
● 地域住民みんなが気軽に利用でき、居場所となる拠点  
● 森岡地区の歴史や自然等の様々な資源を生かした特色あるまちづくり拠点  
● 土地区画整理事業をはじめとした市街地整備も踏まえた交流拠点
- ③ 安全・安心な拠点(防災拠点)**  
防犯性・防災性を持った「安全・安心な拠点」を形成する。  
● 利用者が安全・安心に過ごせる拠点  
● 児童・園児などが安全・快適に過ごせる教育環境を提供する拠点  
● 平常時だけでなく、災害時にも活用できる防災拠点  
● 立地の良さを生かした防災拠点
- ④ 持続可能(適正規模)な拠点**  
ファシリティマネジメントの観点を踏まえ、「ちょうどいい」持続可能な拠点を形成する。  
● 将来世代に負担のかからないよう、施設規模の最適化を図った拠点  
● 共有化、多目的化を可能な限り行い、合理的・効率的な拠点形成  
● VUCA(将来の予測不可能)の時代を見据えた柔軟性・可変性のある拠点  
● 環境配慮等の社会情勢にも対応した拠点
- ⑤ 運営体制(※管理運営計画)**  
複合拠点施設の効果的な運用に向け、計画段階から運営体制の構築を検討する。  
● 「自分ゴト」「みんなゴト」として、計画段階から子どもをはじめ、地域住民みんなが「つくる」「つながる」「ささえあう」拠点運営体制の実現  
● 縦割り行政で複合拠点施設が雑居ビル化しないため、横軸連携(ワンストップサービス)を早期導入し、機能複合を最大限生かした魅力的な拠点運営